

2 年間の流れ(修士論文執筆・実習)

年次	月	修士論文スケジュール	実習の流れ	
			学内実習	学外実習
1 年次	5 月	研究計画書の提出		
	6 月		実習オリエンテーション	
	9 月	小論文①の提出 ※研究テーマ(仮)の設定 問題意識を明確にし、関連した先行研究を整理する。		
		指導教員の決定、指導の開始		
	10月	中間報告会(発表・質疑応答) ※研究の進捗状況の発表		1 年次後期から一定期間の学外実習を実施(見学実習を含む)
	2 月	小論文②の提出 ※研究テーマ(仮)の設定 先行研究、および年間研究成果のまとめ		
2 年次	4 月	修士学位請求論文執筆計画書の提出		
	6 月	中間報告会(発表・質疑応答) ※研究と論文執筆の進捗状況の報告		2 年次の5月から一定期間、2 施設で、合計20日間以上の学外実習を実施
	9 月	小論文③の提出 ※研究の進捗状況と成果のまとめ		
	11 月	修士論文の第一次提出		
		修士論文報告会(発表・質疑応答) ※最終的な論文指導		
	1 月	修士論文の最終提出		
		審査委員会による口頭試問・最終試験		
	2～3月	課程修了判定結果の通知 学位記授与		

●2026年度の内容を掲載しています。年度によって内容が変わる場合があります。

科目概要

臨床心理学特論	心理臨床の实践に入る前に心理臨床の基礎としての理論および実践領域における実態を学びます。
心理学研究法特論	心理学の実証的な研究についての理解を深めることを通して修士論文研究(臨床心理学に関わる研究)を推進し、研究論文を作成する基礎的な力の修得を目指します。
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	1 年次前期開講の必須科目です。心理専門職の専門業務のひとつである臨床面接について、理論とその背景、基本的態度、受理面接、見立てと方針など成人や子どもの心理面接で必要となる臨床的な考え方や姿勢を学びます。
臨床心理面接特論Ⅱ	1 年次後期開講の必須科目です。専門業務である臨床心理面接について、セラピストの資質と面接技法、クライアントーセラピスト関係、クライアントの心的世界の理解や見立てなど、その実践を学びます。
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	臨床心理査定は、心理職(公認心理師、臨床心理士)の職務のひとつで、クライアントの良い面も悪い面も含めた行動や性格を把握、理解し支援に役立てることを目的とします。本演習では、主に心理検査について、実施法や結果の処理、解釈を学び、被験者への援助方策や計画を立てることを目指します。
臨床心理査定演習Ⅱ	臨床心理査定は、心理職(公認心理師、臨床心理士)の職務のひとつで、クライアントの良い面も悪い面も含めた行動や性格を把握、理解し支援に役立てることを目的とします。本演習では、主に投映法検査であるロールシャハ・テストについて、実施法や結果の処理、解釈法などとともに、倫理的事項も学びます。
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	主な精神疾患について、症状・経過・診断・治療の基本事項を解説し、心理・社会的な対応の工夫を学びます。また、今日のメンタルヘルスの課題や展望について議論し、文献や事例を通し考察を深めます。
臨床心理基礎実習	1 年次開講の必須科目で、倫理や姿勢を学び、心理面接に必要な基礎的能力、技術修得を目指します。
臨床心理実習Ⅰ-① 臨床心理実習Ⅰ-② (心理実践実習)	学内実習、学内教員によるスーパーヴィジョン、ケース・カンファレンスへの参加およびケース報告や検討等を通し、臨床心理士および公認心理師の業務において必要となる基本的態度、倫理的事項、基礎的知識および技術を学び、実際に心理的支援を要する者等の理解および支援を実践していく力の修得を目指します。
臨床心理実習Ⅰ-③ 臨床心理実習Ⅰ-④ 臨床心理実習Ⅰ-⑤ (心理実践実習)	学外実習と事前・事後の学習を通し、臨床心理士および公認心理師の業務で必要な基本的態度、倫理的事項、基礎的知識や技術を学び、心理的支援の実際の理解を深め、支援を実践していく力の獲得を目指します。学外施設では実務を体験し、心理的支援、多職種連携、地域連携、職業倫理と法的義務などを学びます。
心理臨床研究演習Ⅰ 心理臨床研究演習Ⅱ	入学後に院生の希望を確認し指導教員が決定します。1 年次後期、2 年次は、指導教員が修士論文研究および論文執筆について、各院生の問題意識や課題について、指導を行います。研究の主体は院生であることから、積極的な姿勢で研究に取り組み、必要に応じて、指導を求める姿勢が必要とされます。